

令和3年度 事業報告

I. 事業概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会（以下「協会」という。）は、歴史上・学術上価値の高い滋賀県の文化財を調査・研究するとともに、それらを文化資産として保護・活用をはかることによって、我が国の文化の向上に寄与してきた。

令和3年度は、コロナ禍において、国や県の情報収集に努め、令和2年度に策定した「事業継続計画」や「新型コロナウイルス感染症防止対策マニュアル」等に基づき、各施設や現場での感染予防対策の徹底に努めるとともに、コロナ禍の影響を受けながらも、状況に応じて適切に対応した。また、協会設立50周年事業については、計画を見直し、事業の一部を次年度以降に延期した。

一方で、当協会の将来を見据えて、埋蔵文化財技師2名を令和4年度から採用することとし、体制の整備を図った。

発掘調査事業では国土交通省等の国事業、県の土木交通部および農政水産部等の公共事業に伴う発掘調査および整理調査に取り組むとともに、市町事業にも柔軟に対応するように努め、発掘調査および整理調査を受託した。

普及啓発事業では、これまで協会に蓄積された技術職員の経験やノウハウ等を活かして市町等に積極的なマネジメント、運営、広報を行い、併せてウイズコロナ・ポストコロナを見据えて、オンラインの活用の検討など積極的な情報発信および主体的事業の実施に努めた。

滋賀県立施設管理運営業務では、滋賀県立安土城考古博物館の指定管理業務（令和3年度～令和7年度）を受託し、指定管理計画に基づき、1年目の管理運営事業等を実施した。

また、滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県埋蔵文化財センターの業務を受託し、管理運営事業等を実施した。

II. 協会運営

1. 役員会議等の開催

①決算監査	令和3年 5月25日（火）
②第1回定例理事会	令和3年 6月 2日（水）
③定時評議員会	令和3年 6月21日（月）
④第1回臨時理事会	令和3年 6月21日（月）
⑤第2回定例理事会	令和3年 9月15日（水）
⑥第3回定例理事会	令和3年12月14日（火）
⑦第4回定例理事会	令和4年 3月16日（水）

2. 管理事務

平成 30 年 3 月に策定した『第五次中期計画』（平成 30 年度～令和 4 年度）に基づき、「より積極的な社会貢献のための攻めの経営」を基本理念にした事業方針を設定し、実現に向けて取り組みを行った。

Ⅲ. 文化財に係る普及啓発事業

平成 31 年 4 月に施行された改正文化財保護法で示された文化財の計画的な保存・活用の促進を目指し、市町・民間との文化財活用事業の促進連携へ積極的に取り組む方針を立て、また新型コロナウイルス感染拡大に対しては予防策を徹底するとともに、オンライン方式の併用などにより対応する方針で臨んだ。

1. 市町・民間事業者との連携事業に関する具体的な実施内容

（1）市町等との連携

①「文化財保存活用地域計画」の作成事業の受託

A 多賀町文化財保存活用地域計画作成事業支援の受託（6 月 15 日契約）

B 米原市文化財保存活用地域計画作成事業支援の受託（7 月 9 日契約）

②「地域」を取り上げた文化財保存活用事業の実施

上記①の B と関連付けながら、米原市をとりあげ、市と連携しながら展示「滋賀県埋蔵文化財地域展Ⅲ」の実施（見学者数 2,519 名）と冊子等の作成を行い、「文化財保存活用地域計画」の基礎データとして活用基盤の一つを構築した。

③歴史文化遺産活用セミナーの実施

第 1 回 10 月 22 日（金）「地域発 文化財を活かすまちづくり」

福井県若狭町熊川宿の地域総がかりの取り組みについて、2 本の報告と質疑応答を企画し、オンラインにより実施した。

第 2 回 2 月 4 日（金）「文化財を通じたまちづくり—民間事業者の視点から」
実施準備を進めたが、直前に新型コロナウイルス感染が急激に拡大した（第 6 波）ため、中止した。

④鈴鹿山麓混成博物館クラスター事業における展示関連事業の受託

鈴鹿山麓混成博物館（一般社団法人多賀観光協会・能登川博物館・愛荘町立歴史文化博物館・滋賀第一交通株式会社等 11 団体で構成）が実施する「聖徳太子」をテーマとした展示のパネル作成業務を受託した。

（2）民間事業者との連携

①県シルバー人材センター連合会等からの事業の受託

i) 遺跡発掘技能講習

10 月～11 月に実施した（修了者 20 名）。

ii) ガイド育成講座

- A 初級編（5月27日～6月4日）、中級編（6月17日～25日）、上級編（7月19日～30日）を、大津市勤労福祉センターを会場に実施した（修了者11名）。
- B 昨年度までの修了者の活躍の場づくりのために、修了者が提出した観光ガイド企画案の吟味・調整、良好な企画案の選出を行い、株式会社平和堂の旅行部門との連携・協働により、一般向け観光ガイド企画を具体化した（修了者2名（調整中1名・1組））。

②講師派遣の事業

i) 株式会社平和堂（坂本店）企画主催事業での連携

新型コロナウイルス感染拡大のため中止された。

ii) 株式会社平和堂（旅行センター）企画主催事業での連携

旅行センターが企画主催する「ビワのWA！近江文化財紀行講座」を対象として、石山店とビバシティ彦根店に対して講師を派遣するとともに、その事業展開（講座のラインナップの構成、オンライン方式の併用等）に対して積極的に提案した。 20回 受講者 延べ132名

iii) 滋賀リビング新聞社主催リビングカルチャー倶楽部との連携

- A 浜大津会場において、「歴史の中の近江ー歴史文化遺産で近江を語る」をテーマとする歴史講座を4月から月2回ずつ実施した。

24回 受講者 延べ194名

- B 県埋蔵文化財センター研修室ほかを会場とし、夏休みの自由研究のサポートとして、遺跡出土の動物骨格等の解説＋実物の標本づくり（コイ）を8月7日（土）・8月8日（日）の2日間をかけて実施した。受講者1名

2. 大学との連携事業に関する具体的な実施内容

（1）大学専攻生のインターンシップの受け入れ

8月18日～8月24日に、京都橘大学文学部の2回生3名を受け入れ、高島市教育委員会とも連携しながら、JR湖西線大津京駅での展示づくりを対象に実施し、完成した展示とその解説状況を記者発表した。

（2）調査補助員としての受け入れ

夏期休暇と春期休暇の期間中に、発掘調査現場での受け入れを実施し、専門職員を目指す考古学等専攻生の意識と技術の向上に貢献した。

①夏期休暇期間

対象者 19名（滋賀県立大学・京都橘大学・奈良大学・龍谷大学・同志社大学）

配置先 栗東市手原遺跡・辻遺跡 9名 栗東市高野遺跡 6名

大津市里西遺跡 4名

②春期休暇期間

対象者 8名（滋賀県立大学・京都橘大学・龍谷大学）
配置先 栗東市手原遺跡・辻遺跡 4名 安土分室（整理調査）2名
県埋蔵文化財センター（企画事業） 2名

（３）大学が実施するオープンキャンパスへの協力

滋賀県立大学への協力を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止された。

３．文化財情報発信事業に関する具体的な実施内容

（１）発掘・整理調査成果の発信

①「レトロ・レトロの展覧会」の開催 栗東市高野遺跡の発掘成果速報

特別陳列Ⅰ 発掘成果速報Ⅱを5月24日（月）～9月30日（木）に開催した。見学者 472名

特別陳列Ⅱ 発掘成果速報Ⅲを10月18日（月）～3月31日（木）に開催した。見学者 344名

②「あの遺跡は今！2021」の開催

新型コロナウイルス感染拡大に留意したうえで、安土城考古博物館の回廊を主会場として、夏休み期間中の7月31日（土）・8月1日（日）に開催し、展示ならびに安土分室における調査作業内容の解説を実施した。見学者 193名

（２）講座事業

①連続講座「文化財ものの知り学」（全7回）

調査員が直接携わってきた調査・研究成果をテーマとした講座を6月から12月にかけて実施した。新型コロナウイルス感染策の一環としてオンラインでのライブ中継を取り入れ、滋賀県埋蔵文化財センター研修室（23名）を本会場とし、サテライト会場となる安土城考古博物館（15名）と自宅受講（27名）を繋いで実施している。

緊急事態宣言の発出に伴い、9月予定分を中止し、1月8日に振替えた。

②体験講座

埋蔵文化財センターが、新型コロナウイルス感染拡大のために規模を縮小しながら、勾玉制作体験、染物体験、鋳造体験を夏休み期間中に実施したので、受付事務等をバックアップした。利用者：62名

（３）協会の取り組みの外部への情報発信事業

①研究紀要の発行

10本の研究論文を掲載し、3月末に刊行した。

②機関誌「おうみ文化財通信」の刊行

7月1日に夏号(vol.48)、10月1日に秋号(vol.49)、1月1日に冬号(vol.50)を刊行し、4月1日付けとして春号(vol.51)を刊行した。

③ホームページの充実と更新

i) 実施した文化財情報発信事業の内容等をブログ等で発信している。

ii) 新企画

A 1の1)の②で掲げた「滋賀県埋蔵文化財地域展Ⅲ」の展示解説を動画(15本)で撮影し、YouTubeに連携させて情報発信した。

B 新規職員の採用募集等に備え、対象となる学生向けに「業務内容の紹介動画」をYouTubeに連携させて情報発信した。

④文化財行事案内(DM)の発送

市町・民間企業主催の事業案内も含め、第1回を6月末に、第2回を9月末に、第3回を12月末に、第4回を3月末に発送した。

会員 164名(令和4年3月現在)

⑤広報事業

滋賀リビング新聞広告8回を実施し、県南14万世帯(特にファミリー層)に向けて協会が実施する事業(連続講座・地域展等)の情報を広く発信した。

⑥協会事業広報媒体の作成事業

i) 文化財にまつわる情報発信・地域づくり・人づくりを目的として協会が実施する「しがぶん募金」の案内リーフレットを作成し、配布した。

ii) 新規職員の採用募集等に備え、対象となる学生向けに「業務内容の紹介パンフレット」を作成し、全国の大学・調査機関等に配布した。

IV. 埋蔵文化財発掘・整理調査事業

令和3年度に実施した発掘調査件数は12件（令和2年度：14件）、整理調査は15件（令和2年度：12件）の計27件（令和2年度：26件）である。調査面積は40,554.56㎡（令和2年度：40,290.73㎡）で、前年度調査面積比100.65%である。

契約件数による事業別では、発掘調査では国土交通省4件・ネクスコ中日本1件・県道路公社1件・県土木交通部2件・県農政水産部1件・市町関係3件（草津市・大津市・多賀町）の事業を実施した。

整理調査では、国土交通省4件、ネクスコ中日本1件、ネクスコ西日本1件、県道路公社1件、県土木交通部4件、県農政水産部1件、市町関係3件（彦根市・草津市・多賀町）の事業を実施した。また、発掘調査報告書（表2参照）については6冊を刊行し、関係機関等へ配布した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発掘調査に係る現地説明会・調査報告会については、参加対象者を地元住民に限定する、あるいは記者発表のみにとどめる等の措置を取らざるを得なかった。

1. 発掘調査事業（図1・表3参照）

（1）手原遺跡ほか（栗東市、国土交通省事業、9,948㎡）

国道1号野洲栗東バイパス建設工事に伴う調査（平成30年度から継続）。事業地内に、辻遺跡（年度途中に「出庭遺跡」として遺跡の範囲および名称の変更あり）と手原遺跡が所在する。今年度の調査において、手原遺跡では古代の溝や土坑、鎌倉時代頃の掘立柱建物と井戸状遺構を、出庭遺跡では古墳時代前期の竪穴建物、古墳時代後期の竪穴建物、古墳時代から平安時代後期頃の掘立柱建物・溝・土坑・谷状地形、室町時代の溝等をそれぞれ検出した。

（2）辻遺跡（栗東市、国土交通省事業、8,994㎡）

一般国道1号野洲栗東バイパス建設工事に伴う調査（平成30年度から継続）。前述の「手原遺跡ほか」と同一路線内での調査になる。当該地についても年度途中で「出庭遺跡」と遺跡名の変更がされた。古墳時代前期の鍛冶工房跡を検出し、土師器・鉄器等が出土した。その他には平安時代頃の土坑・溝を検出している。

（3）佐和山城跡（彦根市、国土交通省事業、810㎡）

国道8号米原バイパス建設工事に伴う調査（平成30年度から継続）。遺跡北端部付近で調査を実施し、堀・区画溝・柱穴等の遺構を検出した。これらの遺構に伴って出土した遺物（土器・陶磁器・木製品・石製品等）の時期から、おおむね15世紀から16世紀前半頃とものと考えられる。

(4) 上砥山遺跡（栗東市、国土交通省事業、431.05 m²）

一般国道1号栗東水口道路建設工事に伴う調査（平成30年度から継続）。調査の結果、川・溝・土坑等を検出し、これらの遺構に伴い奈良時代の須恵器・土師器等が出土した。

(5) 土田遺跡（多賀町、ネクスコ中日本事業、71.65 m²）

名神高速道路（特定更新等）多賀地区車線拡幅工事に伴う調査。調査では小穴・土坑等を検出し、これらの遺構に伴い古代に帰属すると考えられる土師器・須恵器細片が出土した。

(6) 普門南遺跡（大津市、県道路公社事業、2,823 m²）

国道477号線（大津側）4車線化工事に伴う調査。古墳時代のおもな遺構としては竪穴建物2棟、溝等を、平安時代のものとしては溝等をそれぞれ検出し、これの遺構に伴い須恵器・土師器・灰釉陶器・黒色土器等が出土した。

(7) 里西遺跡（大津市、県土木交通部事業、3,679.86 m²）

南郷桐生草津線補助道路整備工事に伴う調査。調査の結果、調査対象地全域で縄文時代から室町時代にかけての遺構・遺物を確認した。特に、鎌倉時代から室町時代にかけての集落に関する遺構は密度高く分布しており、掘立柱建物20棟、土坑墓1基、井戸5基のほか、溝や土坑等を検出した。溝の中には南北方向に延びる灌漑用水路や屋敷地の区画を示すものがあり、灌漑用水路の西側に面して屋敷地が建ち並ぶ様子が明らかとなった。この他に弥生時代後期の竪穴建物2棟や河道、飛鳥時代の溝、古代の掘立柱建物等を確認した。

(8) 福林寺古墳群（野洲市、県土木交通部事業、450 m²）

中ノ池川支流補助通常砂防（総流防）工事に伴う調査（令和2年度から継続）。調査区内に2基の古墳（円墳）が存在する。調査の結果、福林寺古墳群2号墳は南西方向に開口する横穴式石室を持つことが判明した。福林寺古墳群3号墳は横穴式石室の構造が明らかとなり、副葬品の土器・鉄製品・耳環が出土した。

(9) 高野遺跡（栗東市、県農政水産部事業、11,688 m²）

六地藏地区は場整備工事に伴う調査（平成30年度から継続）。古墳時代の竪穴建物、奈良時代から平安時代の掘立柱建物、東海道、平安時代の金属生産に関わる可能性のある炉状遺構のほか、溝・土坑・小穴が検出され、これらの遺構に伴い土器類（土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器・陶器・瓦）、石製品（砥石）、金属製品（刀子・釘・金属滓）が出土した。

(10) 櫛差遺跡ほか 2 遺跡（草津市、民間開発事業、2,919 m²）

草津市野路町地先、民間商業施設開発事業に伴う調査。調査の結果、奈良時代前半頃から鎌倉時代頃の掘立柱建物・井戸・土坑・溝、縄文時代から平安時代中頃の旧河道、江戸時代の野井戸を検出した。

また、これらの遺構に伴い土器類（土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦器・黒色土器等）や石製品（石鏃等）、金属製品（鉄製品・鉄滓等）、その他（木炭・炉壁）が出土した。

(11) 近江国府跡（大津市、民間開発事業、1,398.14 m²）

大津市大江六丁目地先、民間宅地開発事業に伴う調査。調査の結果、川縁部分に礫敷きを有する旧河道が確認された。礫敷き内からは瓦片や土師器等の遺物も出土した。埋土中には 10～11 世紀の遺物を含む。この他、整地層、11 世紀代の掘立柱建物（2 棟）等を検出した。

(12) 敏満寺遺跡（多賀町、ネクスコ中日本事業、777 m²）

（仮称）多賀スマートインター設置に伴う町道四ツ谷胡宮線拡幅工事に伴う調査。調査の結果、弥生時代後期頃の竪穴建物を検出し、当該期の土器が出土した。

表 1 令和 3 年度 発掘調査に係る現地説明会・調査報告会、報道発表等の開催実績

公開日	参加人数	遺 跡 名	所在地	公開・発表 の方法	場 所	備 考 (対象者等)
11 月 13 日(日)	20 人	福林寺古墳群	野洲市	現地説明会	現地	地元
11 月 13 日(日)	36 人	辻遺跡	栗東市	現地説明会	現地	地元
2 月 5 日(土)	12 人	普門南遺跡	大津市	成果報告会	地元地区公民館	地元
2 月 20 日(日) ※中止	新型コロナウ イルス感染防 止対策により 中止	高野遺跡	栗東市	現地説明会	現地	地元(資料は 全戸配布) ※協会 HP に代替 動画をアップ、地 元配布資料には その旨を明記)
説明会 小計(a)	68 人					
5 月 24 日(月) ～9 月 30 日(木)	534 人	レトロ・レトロの展覧会 2021 特別陳列 1(高野遺跡) 「東海道を探索 PART2 す がたをあらわした古代の ハイウェイ」	栗東市	遺物展示	埋蔵文化財センタ ー	一般
10 月 18 日(月) ～3 月 31 日(木)	344 人	レトロ・レトロの展覧会 2021 特別陳列 2(上砥山 遺跡) 「速報！草津市・黒土遺跡 の発掘成果 東山道を探 る～道沿いの生業～」	草津市	遺物展示	埋蔵文化財センタ ー	一般
7 月 31 日(土) ～8 月 1 日(日)	193 人	あの遺跡は今！ Part28 おいでやす整理室 滋賀のお宝と考古学のお 仕事	栗東市 ほか	遺物展示・ 作業内容公開	安土城考古博物館 整理室	一般
展示会 小計(b)	1,071 人					
合計(a+b)	1,139 人					
8 月 6 日(金)	— 人	高野遺跡(銅鏡)	栗東市	記者発表	埋蔵文化財センタ ー	解禁なし
2 月 28 日(月)	— 人	辻遺跡(鋳造遺構)	栗東市	記者発表	埋蔵文化財センタ ー	3/2 解禁

- (1) 手原遺跡ほか
- (2) 辻遺跡
- (3) 佐和山城跡
- (4) 上砥山遺跡
- (5) 土田遺跡
- (6) 普門南遺跡
- (7) 里西遺跡
- (8) 福林寺古墳群
- (9) 高野遺跡
- (10) 榊差ほか2遺跡
- (11) 近江国府跡
- (12) 敏満寺遺跡

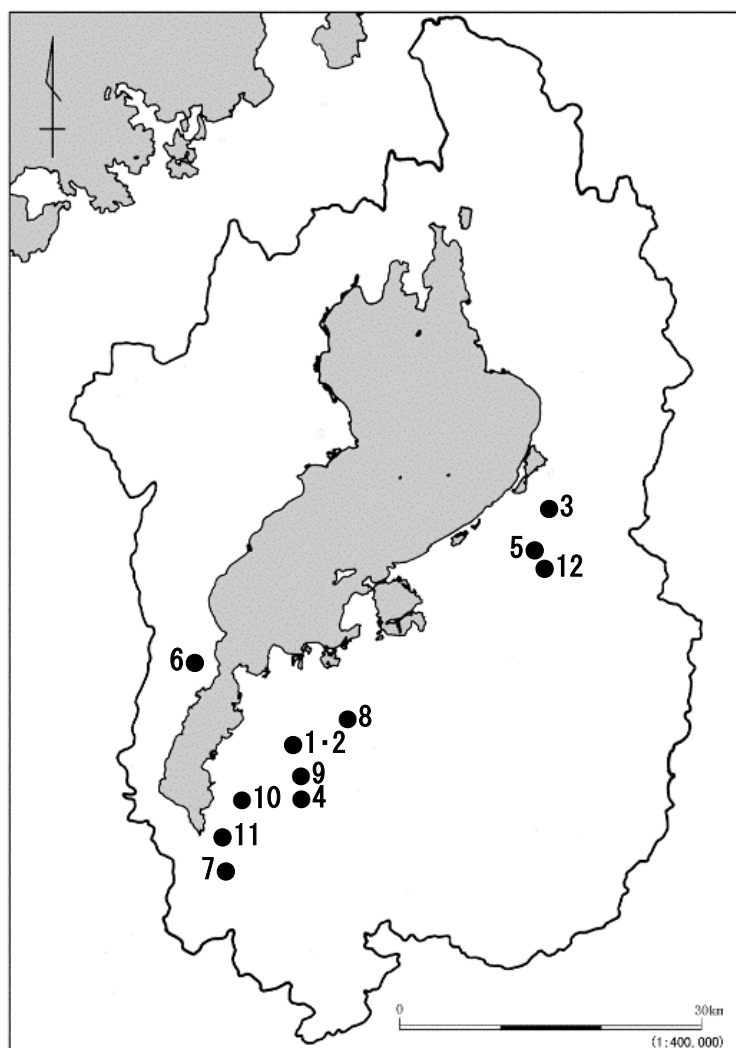


図1 令和3年度発掘調査遺跡の位置

2. 整理調査事業（表3参照）

（1）国土交通省事業

中畑・古里遺跡ほか、松原内湖遺跡、辻遺跡、矢倉川遺跡の整理調査を行い、中畑・古里遺跡ほか、松原内湖遺跡の報告書を刊行した。

（2）公社・旧公団事業

敏満寺遺跡（ネクスコ中日本）、椿谷遺跡（ネクスコ西日本）、大野遺跡・普門南遺跡（滋賀県道路公社）の整理調査を行った。

（3）県土木交通部事業

蜂屋遺跡（流域政策局）、小比江遺跡、久野部遺跡、番場遺跡・播沢遺跡（道路整備課）の整理調査を行い、小比江遺跡、久野部遺跡の報告書を刊行した。

(4) 県農政水産部事業

脇館遺跡（耕地課）の整理調査を行い、脇館遺跡の報告書を刊行した。

(5) 市町等事業

榊差遺跡ほか2遺跡（草津市）、福満遺跡（彦根市）、敏満寺遺跡（多賀町）の整理調査を行い、敏満寺遺跡の報告書を刊行した。

表2 令和3年度刊行の発掘調査報告書一覧

報 告 書 名	所在地	事業者	内 容
一般国道8号野洲栗東バイパス建設に伴う発掘調査報告書1 安城寺遺跡、中畑・古里遺跡、 斎ノ神遺跡、三上遺跡 三上西ノ川原遺跡	野洲市	国土交通省	弥生時代中期から鎌倉時代前期にかけての遺構・遺物を確認。弥生中期から奈良期までの遺構は小規模に展開するが、平安後期になると野洲郡条里の拡大・発展に伴い斎ノ神遺跡を中心に条里地割と同方位をとる掘立柱建物が展開し、併せて豊富な遺物が出土した。
一般国道8号米原バイパス建設に伴う発掘調査報告書4 松原内湖遺跡	彦根市	国土交通省	丘陵部では古墳時代後期の古墳石室と安土桃山時代の堀切・堅堀を、谷部では縄文時代から中世の遺物包含層、低地部では奈良時代から室町時代の集落跡をそれぞれ検出した。また、全国的にも稀少な鎌倉時代末の紀年銘を有する巻数板も出土した。
近江八幡守山線補助道路整備工事に伴う発掘調査報告書 小比江遺跡	野洲市	県土木交通部	方形周溝墓9基と溝、落ち込み状遺構等を検出、出土遺物の年代観から周辺に弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての墓域が広がっていたことが判明した。
木部野洲線補助道路整備工事に伴う発掘調査報告書 久野部遺跡	野洲市	県土木交通部	調査範囲に大行寺神社本殿の基壇が含まれることから、その一部も調査した。その結果、中世から近世にかけての各時期の遺構・遺物を検出した。
ほ場整備関係（経営体育成基盤整備事業）遺跡発掘調査報告書44 脇館遺跡	東近江市	県農政水産部	近江源氏佐々木氏の本拠地、小脇館跡の推定地の東方約100mの地点で調査を実施。遺構・遺物とも希薄な状態であり、城館の周囲が空閑地であったことを示唆する。
多賀町埋蔵文化財発掘調査報告書24集 敏満寺遺跡 名神高速道路（仮称）多賀スマートインターチェンジ下り線建設工事に伴う事前発掘調査	多賀町	多賀町教委	中世敏満寺に関連する遺構・遺物は出土しなかったが、弥生時代後期の堅穴建物を検出した。鈴鹿山麓および丘陵地の土地利用や変遷を考えていくうえで重要な資料となる調査例である。

表3 令和3年度 埋蔵文化財調査事業一覧

1. 発掘調査事業

No.	番契 号約	遺跡名	調査面積 (㎡)	検出されたおもな遺構と時期
国土交通省事業				
1	906	手原遺跡ほか	9,948	手原遺跡では古代の溝や土坑、鎌倉時代頃の掘立柱建物と井戸状遺構を、出庭遺跡（年度途中で辻遺跡から遺跡の範囲および名称の変更あり）では古墳時代前期の堅穴建物、古墳時代後期の堅穴建物、古墳時代から平安時代後期頃の掘立柱建物・溝・土坑・谷状地形、室町時代の溝等をそれぞれ検出した。
2	920	辻遺跡	8,994	古墳時代前期の鍛冶工房跡を検出し、土師器・鉄器等が出土した。その他には平安時代頃の土坑・溝を検出している。
3	923	佐和山城跡	810	遺跡北端部付近で調査を実施し、堀・区画溝・柱穴等の遺構を検出した。これらの遺構に伴って出土した遺物（土器・陶磁器・木製品・石製品等）の時期から、おおむね15世紀から16世紀前半頃とものと考えられる。
4	924	上砥山遺跡	431.05	調査の結果、川・溝・土坑等を検出し、これらの遺構に伴い奈良時代の須恵器・土師器等が出土した。
ネクスコ中日本事業				
5	925	土田遺跡	71.65	調査では小穴・土坑等を検出した。また、これらの遺構に伴い古代に帰属すると考えられる土師器・須恵器細片が出土した。
県道路公社事業				
6	913	普門南遺跡	2,823	古墳時代のおもな遺構としては堅穴建物2棟、溝等を、平安時代のものとしては溝等をそれぞれ検出し、これらの遺構に伴い須恵器・土師器・灰釉陶器・黒色土器等が出土した。
県土木交通部道路整備課事業				
7	904	里西遺跡	3,679.86	調査の結果、調査対象地全域で縄文時代から室町時代にかけての遺構・遺物を確認した。特に、鎌倉時代から室町時代にかけての集落に関する遺構は密度高く分布しており、掘立柱建物20棟、土坑墓1基、井戸5基のほか溝や土坑等を検出した。溝の中には南北方向に延びる灌漑用水路や屋敷地の区画を示すものがあり、灌漑用水路の西側に面して屋敷地が建ち並ぶ様子が明らかとなった。この他に弥生時代後期の堅穴建物2棟や河道、飛鳥時代の溝、古代の掘立柱建物等を確認した。
県土木交通部砂防課事業				
8	905	福林寺古墳群	450	調査区内に2基の古墳（円墳）が存在する。調査の結果、福林寺古墳群2号墳は南西方向に開口する横穴式石室を持つことが判明した。福林寺古墳群3号墳は横穴式石室の構造が明らかとなり、副葬品の土器・鉄製品・耳環が出土した。
県農政水産部耕地課事業				
9	914	高野遺跡	11,688	古墳時代の堅穴建物、奈良～平安時代の掘立柱建物、東海道、平安時代の金属生産に関わる可能性のある炉状遺構のほか、溝・土坑・小穴が検出され、これらの遺構に伴い土器類（土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・黒色土器・陶器・瓦）、石製品（砥石）、金属製品（刀子・釘・金属滓）が出土した。
市町関係事業				
10	901	榊差ほか2遺跡	600	土地区画整理事業に伴う調査。調査の結果、奈良時代前半頃から鎌倉時代頃の掘立柱建物・井戸・土坑・溝、縄文時代から平安時代中頃の旧河道、江戸時代の野井戸を検出した。また、これらの遺構に伴い土器類（土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦器・黒色土器等）や石製品（石鏃等）、金属製品（鉄製品・鉄滓等）、その他（木炭・炉壁）が出土した。
11	902	近江国府跡	282	民間宅地開発事業に伴う調査。調査の結果、川縁部分に礫敷きを有する旧河道が確認された。礫敷き内からは瓦片や土師器等の遺物も出土した。埋土中には10～11世紀の遺物を含む。このほか、整地層、11世紀代の掘立柱建物（2棟）等を検出した。
12	903	敏満寺遺跡	777	スマートインター設置に伴う町道拡幅工事に伴う調査。調査の結果、弥生時代後期頃の堅穴建物跡を検出し、当該期の土器が出土した。
計			40,554.56	

2. 整理調査事業

No.	番 契 号 約	遺跡名	発掘 年度	報告 書	検出されたおもな遺構と時期
国土交通省事業					
1	910	中畑・古里遺跡ほか	H27～30	○	弥生時代中期から後期の方形周溝墓や竪穴建物、古墳時代前期の竪穴建物、奈良時代の柵・掘立柱建物・井戸、平安時代の溝・掘立柱建物・井戸等を検出。
2	912	松原内湖遺跡	H24～29	○	縄文・奈良・室町時代の掘立柱建物・溝・土坑等を検出。そのほか、古墳時代の横穴式石室や戦国期の堀切・竪堀等を確認。
3	926	辻遺跡	H30・R1		古墳時代前期から後期の落ち込み・溝・竪穴建物・掘立柱建物・井戸等、平安時代後期の溝・道路状遺構を検出。これらの遺構に伴い、土師器・須恵器・韓式土器等の土器類や、鉄製品、鍛冶滓、玉類・砥石等の石製品、井戸枠等の木製品が出土。
4	927	矢倉川遺跡	R1・R2		調査の結果、遺物包含層を検出。縄文土器・弥生土器・陶磁器片、石製品、下駄等の木製品が出土。
ネクスコ中日本事業					
5	907	敏満寺遺跡	R2		縄文時代の竪穴建物を検出し、縄文土器、石鏃などの剥片石器、矢柄研磨器などの礫石器が出土。また、室町時代頃の掘立柱建物・土坑・溝を検出し、土師器・陶器等の遺物が出土。
ネクスコ西日本事業					
6	909	椿谷遺跡	H29・R2		大正時代に操業した石切場の附属施設と考えられる、石積・砂防堰堤を確認。
県道路公社事業					
7	908	大野遺跡、普門南遺跡	R2		古墳時代の竪穴建物・河川・溝、平安時代の掘立柱建物・土器埋納遺構等を検出。これらの遺構に伴い、土器（土師器・須恵器・白磁等）、木製品（下駄・木材等）、石製品（石鏃・剥片）が出土。
県土木交通部流域政策局事業					
8	911	蜂屋遺跡	H28～30		古墳時代前・中期の河川、平安時代末から鎌倉時代初頭の屋敷地を区画する溝、室町時代後期から安土桃山時代の井戸・土坑・河川、江戸時代中期の井戸・溝・土坑等、多数の遺構を検出。法隆寺式軒瓦など奈良時代の「蜂屋廃寺」関連遺物も出土。
県土木交通部道路整備課事業					
9	915	小比江遺跡	R1	○	方形周溝墓9基と溝、落ち込み状遺構等を検出、出土遺物の年代観から周辺に弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての墓域が広がっていたことが判明。
10	916	久野部遺跡	R2	○	調査範囲に大行事神社本殿の基壇が含まれることから、その一部も調査し、中世から近世にかけての各時期の遺構・遺物を検出。
11	922	番場・播沢遺跡	H29～R1		縄文時代の土器埋納ピット、弥生時代後期の流路、古墳時代前半期の土坑、中世の掘立柱建物・溝・土坑・小穴等を検出。
県農政水産部耕地課事業					
12	917	脇館	R2	○	佐々木六角氏の居館が所在したと推定される遺跡であり、土坑・小穴等を検出。
市町関係事業					
13	918	福満（彦根市）	H29・H30		縄文時代後期の河川、古墳時代から奈良時代にかけての竪穴建物・掘立柱建物、平安時代の井戸等を検出。
14	919	敏満寺遺跡（多賀町）	R3	○	鎌倉時代に盛期を誇った敏満寺を中心とした遺跡。敏満寺に関連する遺構・遺物は出土しなかったが、弥生時代後期の竪穴建物跡を検出した。鈴鹿山麓および丘陵地の土地利用や変遷を考えていくうえで重要な資料となる調査例。
15	918	榊差ほか2遺跡（草津市）	R2・R3		奈良時代前半頃から鎌倉時代頃の掘立柱建物・井戸・土坑・溝、縄文時代から平安時代中頃の河川、江戸時代の野井戸を検出。

表 4 令和3年度文化財関係調査受託事業一覧表

令和4年3月31日現在

(単位：円)

契約 番号	受 託 事 業 名	区 分	原 因 者	契約額 (税抜)	うち人件費	うち事務費
	(国土交通省関係)					
906	手原遺跡ほか	発掘	滋賀国道事務所	85,017,000	31,546,020	17,136,512
910	中畑・古里遺跡ほか	整理	滋賀国道事務所	10,607,000	5,592,965	2,497,835
912	松原内湖遺跡	整理	滋賀国道事務所	7,765,000	2,996,543	1,666,204
920	辻遺跡	発掘	滋賀国道事務所	64,191,000	25,677,313	12,843,594
923	佐和山城跡	発掘	滋賀国道事務所	8,154,000	2,078,544	1,678,940
924	上砥山遺跡	発掘	滋賀国道事務所	4,701,000	1,715,899	1,040,365
926	辻遺跡	整理	滋賀国道事務所	808,000	604,448	198,352
927	矢倉川遺跡	整理	滋賀国道事務所	182,000	113,334	43,666
	8		小計	181,425,000	70,325,066	37,105,468
	(ネクスコ西日本・中日本)					
907	敏満寺遺跡	整理	中日本高速道路（株）名古屋支社 彦根保全・サービスセンター	855,000	587,840	203,301
909	椿谷遺跡	整理	西日本高速道路（株）関西支社 新名神大津事務所	1,221,000	899,920	300,280
925	土田遺跡	発掘	中日本高速道路（株）名古屋支社 彦根保全・サービスセンター	267,000	163,558	65,442
	3		小計	2,343,000	1,651,318	569,023
	(県道路公社)					
908	大野遺跡、普門南遺跡	整理	滋賀県道路公社	2,876,000	2,122,524	707,236
913	普門南遺跡	発掘	滋賀県道路公社	21,611,000	7,568,777	4,368,884
	2		小計	24,487,000	9,691,301	5,076,120
	(県土木交通部関係)					
904	里西遺跡	発掘	大津土木事務所	55,914,000	21,175,360	11,693,426
905	福林寺古墳群	発掘	南部土木事務所	12,322,000	5,060,890	2,553,253
911	蜂屋遺跡	整理	南部土木事務所	37,336,000	27,674,721	9,410,196
915	小比江遺跡	整理	南部土木事務所	2,359,000	1,445,542	584,238
916	久野部遺跡	整理	南部土木事務所	1,401,000	812,966	344,695
922	番場・播沢遺跡	整理	東近江土木事務所	2,960,000	2,073,805	726,391
	6		小計	112,292,000	58,243,284	25,312,199
	(県農政水産部関係)					
914	高野遺跡	発掘	大津・南部農業農村振興事務所	91,835,000	36,838,352	19,191,014
917	脇館遺跡	整理	東近江農業農村振興事務所	761,000	393,820	189,354
	2		小計	92,596,000	37,232,172	19,380,368
	(市町等関係)					
901	榊差ほか2遺跡	発掘	草津市・バロー	7,888,000	1,521,513	1,817,901
902	近江国府跡	整理	大津市・Nテックジャパン	3,149,000	1,466,387	664,046
903	敏満寺遺跡	発掘	多賀町	6,955,000	1,954,507	1,563,240
918	福満遺跡	整理	彦根市	8,415,000	4,961,246	1,794,054
919	敏満寺遺跡	整理	多賀町	812,000	354,728	200,841
921	榊差ほか2遺跡	整理	草津市・バロー	4,939,000	2,946,695	1,061,205
	6		小計	32,158,000	13,205,076	7,101,287
	27		合 計	445,301,000	190,348,217	94,544,465

V. 保存活用事業

1. 保存処理業務

小比江遺跡から出土した木製品について、ポリエチレングリコール含浸法や真空凍結乾燥法による保存処理を行った。

2. 写真資料等の貸出および掲載許可等

書籍等への掲載のための写真資料等の貸出や掲載許可等の業務を行っている。

今年度は写真・イラスト資料の貸出は5件（掲載・転載を含む）、資料の貸出は1件であった。

VI. 「県立安土城考古博物館」「県立琵琶湖文化館」および「県埋蔵文化財センター」の管理運営事業

「県立安土城考古博物館」

1. 展示事業

(1) 特別展

①令和3年度春季特別展

「びわ湖と城―信長・秀吉・家康の湖上支配―」

戦国時代には高地にあった城は、織豊期には湖岸や湖上に築かれた。その背景には領国支配の確立と城下町の経済を発展させる支配者の使命があり、その鍵を握るのが琵琶湖水運の掌握であった。今回は、城郭と琵琶湖の結びつき、天下人の湖上支配を通して、琵琶湖の歴史的役割を紹介した。

会 期：令和3年4月24日（土）～6月6日（日）（39日間）

入館者数：3,741人

関連行事：・4月25日（日）「大津百艘船の成立と大津町」

高橋大樹氏（大津市歴史博物館） 参加者 39人

・5月9日（日）「天下人は琵琶湖をどう支配したか」

東 幸代氏（滋賀県立大学） 参加者 42人

・5月16日（日）「彦根城はなぜ湖辺に築かれたのか」

鈴木達也氏（滋賀県彦根城世界遺産登録推進室） 参加者 32人

・5月23日（日）「水運を取り入れた城下町・八幡」

鳥野茂治氏（近江八幡市文化観光課） 参加者 37人

②令和3年度秋季特別展

公益財団法人滋賀県文化財保護協会設立50周年記念

「黎明―東西文化が共生した先史時代の近江―」

東西文化の接点に位置する近江では、縄文時代にも東西の文化が融合し共存しながら展開した。弥生時代初めに西から稲作文化が波及すると、文化の境界域にある近江では縄文時代よりもさらに複雑に展開することになった。その様子を滋賀県文化財保護協会の発掘成果を中心にすえて紹介した。

会 期：10月9日（土）～11月21日（日）（39日間）

入館者数：3,751人

関連行事：・10月23日（土）「縄文人の生活戦略―湖辺の暮らし―」

小島孝修（当協会） 参加者 29人

・10月30日（土）「交差する人々

―大陸系穀物の受容と東日本系祭祀の展開―」

寺前直人氏（駒澤大学） 参加者 28人

- ・ 11 月 14 日（日）「初期農耕文化の東伝
—淀川をさかのぼった遠賀川集団はどう変わったか—」
森岡秀人氏（関西大学大学院） 参加者 33 人

（２）企画展

①第 64 回企画展「発掘された近江—関津遺跡と関津城跡—」

大津市南部、琵琶湖の入り口に位置する関津遺跡・関津城跡において、平成 15 年から 23 年にかけて発掘調査された旧石器時代から戦国時代におよぶ各時代の調査成果を紹介した。

会 期：7 月 17 日（土）～9 月 20 日（月・祝）（63 日間）

入館者数：5,677 人

関連行事：・ 7 月 24 日（土）「石器時代の関津」

鈴木康二（当協会） 参加者 25 人

・ 7 月 31 日（土）「紫香楽宮・保良宮と関津」

松浦俊和氏（元大津市歴史博物館館長） 参加者 40 人

・ 8 月 21 日（土）「在地土豪の城—関津城を中心に—」

小林裕季（当協会） 参加者 26 人

・ 9 月 11 日（土）「関津遺跡と関津城跡」

藤崎高志（当館学芸員） 緊急事態宣言発令につき中止。

②第 65 回企画展「伝教大師最澄と天台宗のあゆみ」

天台宗の宗祖伝教大師最澄が亡くなって 1200 年の今年、琵琶湖文化館が収蔵する最澄にかかわりのある品々や天台宗の幅広い信仰を示す宝物を中心に公開した。

会 期：令和 4 年 2 月 5 日（土）～4 月 3 日（日）（58 日間）

入館者数：3,872 人（3 月 31 日現在）

関連行事：・ 2 月 27 日（日）「最澄時代の仏教と天台の美術」

和澄浩介氏（琵琶湖文化館） 参加者 31 人

・ 3 月 13 日（日）ギャラリートーク

和澄浩介氏 参加者 28 人

（３）特別陳列等

最近の発掘調査成果から注目されたトピックを取り上げ、望楼下において常設展示等の展示ケースを使用して展示紹介した。

①近江の遺跡発掘成果 I

「古墳時代の工芸職人 —栗東市辻遺跡—」

期間：6 月 8 日（火）～7 月 14 日（水）

内容： 一般国道 8 号野洲栗東バイパス建設工事に伴う発掘調査の成果とし

て、令和2年に栗東市辻遺跡から出土した古墳時代中期のガラス小玉
鋳型を取り上げた。朝鮮半島からもたらされた工芸技術であり、県下
でははじめての出土例となった本資料を、付近から見つかった鍛冶滓、
韓式系土器とともに展示紹介した。

②近江の遺跡発掘成果Ⅱ

「文字の刻まれた土器 ー野洲市桜生7号墳出土品ー」

期間：11月24日（水）～令和4年1月23日（日）

内容： 桜生古墳群は6～7世紀頃に造られた野洲市の古墳群。このうち桜
生7号墳から出土した須恵器短頸壺は7世紀前半頃のもので、へらで
文字が書かれていた。時期の分かる文字資料としては滋賀県最古で、
令和3年に滋賀県有形文化財に指定された。

今回は大津市関津遺跡出土の墨書土器（7世紀第二四半期頃）と併
せて展示し、初期の文字とその普及を紹介した。

（４）常設展示

①第1常設展示（弥生時代から古墳時代が中心テーマ）

弥生時代のコーナーでは大中の湖南遺跡出土遺物や大岩山出土銅鐸等を展示し、
古代人の生活や自然環境などを体感できるように構成している。古墳時代のコーナ
ーでは、瓢箪山古墳と雪野山古墳のほか、新開古墳等に関する展示を行っている。

なお、パソコンによる考古学クイズや近江の遺跡に関する情報提供、ならびに直
接手で触れられる木製品の複製品・銅鐸の復元品は、新型コロナ感染拡大防止のた
め休止している。

②第2常設展示（戦国・安土桃山時代と城郭が中心テーマ）

「中世の城づくり」では『築城記』をもとに中世城郭の一部を実物大に復元し、
「戦国時代の近江」では、観音寺城や小谷城などを紹介している。「安土城と織田
信長」では、安土城跡の復元模型や発掘調査の成果、織田信長関連の資料を展示し
ている。さらに、展示室内の映像シアターでは、安土城跡の発掘調査成果や安土城
の復元映像を放映している。

なお、「信長研究室」コーナーの情報検索システムは、新型コロナ感染拡大防止の
ため休止している。

（５）ロビー展示

常設展示室や企画展示室での展示の他にも、滋賀県内で実施されている発掘調査
の成果を紹介するミニ展示、各種イベントに関連するパネル展示を、エントランス
ホール・望楼下ホールにおいて随時行っている。本年度は新型コロナ感染防止によ
り、実施していない。

(6) 回廊展示

滋賀県各地で行われている発掘調査で出土した遺物の整理作業や、収納の様子を展示化している。来館者は中庭に面した回廊を歩きながら、整理作業の過程や保存処理室などを窓越しに見学することができる。

なお、須恵器や古代の瓦、大津市栗津湖底遺跡第3貝塚の発掘調査で出土した縄文時代の貝殻などの遺物に触れることができる展示は、新型コロナ感染拡大防止のため休止している。

(7) 屋外展示

①重要文化財 旧宮地家住宅、②県指定文化財 旧柳原学校校舎、③国登録文化財旧安土巡査駐在所、④石灯籠・道標・車石・礎石を屋外で展示している。建造物の内部観覧は制限して、そのほかは来館者に自由に観覧していただいている。

(8) 大阪府立近つ飛鳥博物館連携事業『でかける博物館 in 滋賀県立安土城考古博物館』 「残された表情 顔」

会期：7月24日（土）～8月29日（日）

内容：大阪府立近つ飛鳥博物館の収蔵品から、人物、とくに顔を表現した考古資料を選んで展示。墓山古墳、青山遺跡出土の人物埴輪、南花田遺跡・萱振遺跡出土の人面墨書土器を紹介した。

なお、近つ飛鳥博物館では8月14日（土）～9月20日（月・祝）に「滋賀県最古の文字資料―桜生古墳群7号墳出土の須恵器―」と題して、文字を刻みつけた須恵器を展示紹介した。

2. 普及事業等

(1) 博物館講座事業

上記の特別展・企画展の関連講演・講座のほか、次の講座を開催した

①金曜城郭講座（全3回、うち2回は中止）

県文化財保護課城郭調査係の職員を講師に迎え、滋賀県の城郭に関する情報を発信する連続講座を前年度に引き続き3回にわたって実施。今回は「豊臣近江の城・徳川近江の城」を全体テーマに実施した。

第1回 7月30日（金）「徳川近江の城」

松下 浩氏（滋賀県文化財保護課）

参加者 42人

第2回 8月27日（金）「水口岡山城から水口城へ」

大道和人氏（滋賀県文化財保護課）緊急事態宣言発令につき中止。

第3回 9月24日（金）「大津城から膳所城へ」

仲川 靖氏（滋賀県文化財保護課）緊急事態宣言発令につき中止。

②入門講座（全3回、うち1回は中止）

常設展示室の展示品を当館学芸員が次の内容で解説する講座。

第1回 6月13日（日）「琵琶湖の湖底遺跡」

福西貴彦（当館学芸員）

参加者 13 人

第2回 9月26日（日）「近江の中世集落」

高木叙子（当館学芸員）

緊急事態宣言発令につき中止。

第3回 12月12日（日）「大岩山銅鐸」

伊庭 功（当館学芸課長）

参加者 12 人

③連続講座Ⅰ「近江の古墳時代」（全4回）

長年にわたって滋賀県を中心とする古墳時代研究に携わってきた細川修平氏（文化財保護課彦根城世界遺産登録推進室 室長補佐）に、「近江の古墳時代」と題してその研究成果を披露していただいた。

第1回 6月5日（土）「近江の古墳時代（前期編）」

参加者 42 人

第2回 7月3日（土）「近江の古墳時代（中期編）」

参加者 39 人

第3回 8月7日（土）「近江の古墳時代（後期編）」

参加者 33 人

第4回 11月20日（土）「近江の古墳時代（終末期編）」

（緊急事態宣言発令につき9月4日から延期開催）

参加者 21 人

④連続講座Ⅱ「新・安土城講座」（全6回）

県が計画を進めている「幻の安土城復元プロジェクト」。平成の安土城跡調査整備事業に取り組み、改めて令和の調査整備事業の計画に携わっている木戸雅寿氏（文化スポーツ部参事員）に、「新・安土城講座」と題してこれまでの研究成果を披露していただいた。

第1回 10月2日（土）「安土築城の意義 ―信長の意図―」

参加者 41 人

第2回 11月13日（土）「天主と天守 ―天下人の天守とは―」

参加者 33 人

第3回 12月4日（土）「『天主指図』の謎」

参加者 36 人

第4回 1月15日（土）「安土山図屏風を探せ」

参加者 41 人

第5回 2月12日（土）「新説・安土セミナリヨ」

参加者 31 人

第6回 3月19日（土）「幻の安土城復元プロジェクト」

参加者 34 人

（2）体験学習・ワークショップ

次の日程で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により一部開催を中止した。

・子ども考古学教室

8月2日（月）

参加者 9 人

・勾玉を作ろう 第1回

7月26日（月）

参加者 9 人

第2回

8月28日（土）緊急事態宣言発令につき中止。

・子ども考古学教室

3月27日（日）

参加者 11 人

(3) 城郭探訪

近在の史跡を案内する企画として安土城跡・観音寺城跡を巡る史跡探訪を開催した。

「安土城を歩く」	4月24日(土)	参加者19人
「観音寺城を歩く」	5月1日(土)	雨天中止

(4) 刊行物

特別展図録、企画展図録、博物館だより「おおてみち」(年4回)、年報、ポスター、チラシ、催し物案内等を発行した。

(5) 報道機関等への資料提供

各展示・イベントごとに資料を作成し、滋賀県県政記者クラブ・地元市政記者クラブ等に情報を提供し、広報への協力を依頼した。また、ホームページにより情報提供を行った。

(6) 資料貸出等

当館所蔵の資料(文化財・写真等)を全国の博物館等へ貸し出し、館蔵品を活用するとともに、滋賀県の歴史・文化に関する情報を発信した。

(7) その他事業

① イベント関係

より多くの方々に博物館に親しんでいただくための行事として、次のイベントを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止により一部開催を中止した。

・親子写生大会	5月2日(日)～5月5日(水・祝)	参加者75人
写生展示	5月29日(土)～6月27日(日)	

・よし笛コンサート	10月10日(日)	参加者48人
-----------	-----------	--------

・お正月飾りを作ろう	12月5日(日)	参加者14人
------------	----------	--------

例年開催している春・秋のお茶会、ミュージアムコンサートは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

② アンケート調査の実施

博物館のより良い運営を行うため、各展示会、イベントおよび講演会でアンケート用紙を配布し、来館者の要望や意見などの把握に努めた。

③ その他

- ・入館者150万人記念セレモニー

開館以来の入館者数が4月6日午前に150万人に達し、これを記念してセレモニーを挙行了した。

- ・自主事業「デジタル・ミュージアム」

指定管理計画書に自主事業として提案したデジタル・ミュージアムの一環として、学芸員による展示紹介映像の配信、およびストリートビューのように館内をめぐるバーチャル・ミュージアムのコンテンツを作成、公開した。

- ・スマホアプリ「ニッポン城めぐり」

スタンプラリー「ニッポン城めぐり」を利用した地域限定周遊企画「藤吉郎から太閤へー秀吉出世の軌跡を近江にたどるー」（県文化財活用推進室）において、訪問必須ポイントとして参加し、望楼下ホールにQRポスターを設置した。

期間：8月4日（火）～ 令和4年3月21日（月・祝）

3. 博学連携事業

（1）博物館実習生の受け入れ

当館では、博物館法施行規則第1条に基づき博物館実習生を受け入れ、博物館の実務について指導した。

日 程：8月24日（火）～29日（日）までの6日間

実習生：8名（京都橘大学2名、滋賀県立大学2名、追手門大学1名、同志社女子大学1名、立命館大学1名、京都先端科学大学1名）

（2）学校活動支援

学校活動の学習支援のため、受け入れを積極的に進め、体験学習や博物館案内などの博学連携事業を行った。

参加学校数： 小・中学校、高校・大学など延べ27校

参加者数： 834人（引率者除く）

なお、密集を避けるため、展示見学のみとして、一部を除き体験学習は実施しなかった。

また、令和4年度にむけて、学校の来館学習を促す目的でチラシを作成し、滋賀・京都・岐阜の小学校へ配布した。

4. 管理運営

懸案であった企画展収蔵室の空調設備を更新したほか、第3収蔵庫自動火災報知機感知器改修、リフトロープの取替え、コインロッカーの更新、液晶プロジェクターの更新を実施した。

また、8月14日（土）の大雨により、芝生広場の中央舗道および池の一部に被害があったため、この復旧工事（県委託）を実施し、3月に完了した。

5. 年間入館者数

区 分	令和2年度（人）	令和3年度（人）
個人	12,035	11,864
団体※	20,464	14,353
総数	32,499	26,217
内 高齢者・身障者等	5,989	4,798

（※欄は20人以上の団体料金適用の人数）

「県立琵琶湖文化館」

1. 施設の管理

（1）建物等の維持管理

施設・設備等について、日常管理および定期的な点検を実施し、必要に応じて小修繕を行うなど、適切な維持管理に努めた。また、施設周辺の美化にも尽力した。

修繕箇所）電気室窓の雨漏り、収蔵庫エアコン1基

（2）施設の保安・防火点検等

火災や地震等の緊急時に即応するため緊急連絡体制を敷き、自衛消防組織を編成した。また、休日・夜間等の職員不在時は、機械警備を実施し、安全の確保に努めたほか、防火設備等については業者委託による定期的な保守点検を実施した。

- ・建築基準法12条に基づく点検（建築設備・防火設備）
- ・消防法に基づく消防設備点検（機器点検・総合点検）
- ・電気事業法に基づく高圧受電設備点検（保守点検・停電保守点検）
- ・フロン排出抑制法に基づく第1種特定製品点検（職員による簡易点検）

（3）県有施設点検マニュアルに基づく点検および報告

点検マニュアルに基づき施設・設備の点検を行い、結果を県に報告したほか、必要に応じて施設の状況報告を行った。

2. 収蔵資料の管理

（1）収蔵品の通常保管管理

収蔵庫内において館蔵品および寄託品を適切に保存・管理するため、防虫防霉対策として、委託業者による年間を通じた文化財害虫や空中菌の生息状況のモニタリングおよび計画的な燻蒸を実施した。また、日常的に良好な収蔵環境を維持するための作業に協力し、図録等の整理を行った。

（緊急避難等の理由による文化財の一時寄託受入れ1件）

(2) 貸出および返却作業（貸出および返却に必要な小修繕含む）

資料の貸出や返却、特別観覧等について、スムーズに作業が行えるように県職員をサポートした。また、収蔵品に必要な小修繕を行った。

3. 展覧会への協力

県等と協働で実施する収蔵品展において、リーフレットやパネル等を作成するなど、開催支援を行ったほか、準備・開催にかかる業者の手配および支出行為等を行った。

(1) 琵琶湖文化館地域連携企画展

県内2地域において、当該地域とゆかりのある琵琶湖文化館の収蔵品を中心に、各地の博物館・資料館と連携した展覧会を開催。積極的な展示公開をおこなうことで、全国でも有数の質と量を誇る収蔵品に親しみ、滋賀の文化の豊かさを再認識し、文化財保護の取組について理解をもとめる機会とした。

①「渋沢栄一と中江藤樹・熊沢蕃山－高島市ゆかりの文化財とともに－」

琵琶湖文化館開館60周年・史跡藤樹書院跡指定100周年記念として開催。特に大河ドラマの主人公で注目の渋沢栄一に焦点を当て、高島地域との関係や陽明学への傾倒に迫り、あわせて仏教美術を中心とする文化財も紹介。湖西・高島地域ゆかりの奥深い魅力あふれる品々を展覧した。

※琵琶湖文化館開館60周年・史跡藤樹書院跡指定100周年記念展として開催

会 期 令和3年10月22日（金）～11月14日（日）

会 場 第1会場 高島市藤樹の里文化芸術会館 展示室1
第2会場 近江聖人中江藤樹記念館

主 催 滋賀県、滋賀県立琵琶湖文化館、高島市教育委員会

協 力 公益財団法人藤樹書院、藤樹神社

入館者数 1,165人

関連事業 11月6日（土）講演会 参加者 54人

「渋沢栄一と滋賀—その内面に与えた影響—」

講師 井上優（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館）

「高島市指定文化財の仏教美術」

講師 山下立（滋賀県立安土城考古博物館主任技師）

「未来に守り伝える地域の宝～高島市指定文化財の修理報告～」

講師 坂田さと子氏（株式会社坂田墨珠堂代表取締役）

②「伝教大師最澄と天台宗のあゆみ」

日本天台宗の宗祖伝教大師最澄が没して1200年の節目となるのを機に、琵琶湖文化館が収蔵する最澄にかかわりある品々や天台宗の幅広い信仰を示す宝物を中心に紹介した。

※滋賀県立安土城考古博物館第65回企画展として開催

会 期	令和4年2月5日(土)～4月3日(日)		
会 場	滋賀県立安土城考古博物館		
主 催	滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県立安土城考古博物館		
入館者数	3,872 人（3月31日現在）		
関連事業	2月27日（日）企画展関連博物館講座		参加者 32 人
	「最澄時代の仏像と天台の美術」		
	講師 和澄浩介（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館）		
	3月13日（日）担当学芸員によるギャラリートーク		
			参加者 28 人

4. 講座等への協力

県と協働で実施する滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコヅチ」の開催など、普及啓発事業の実施に協力した。

(1) 滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコツチ」全6回

県と協働のもと、滋賀の文化財にまつわる最新情報を県民に向けて積極的に発信する「滋賀の文化財講座」を実施。昨年度に引き続き、ネーミングライツパートナーに株式会社国華荘(おごと温泉：びわ湖花街道)の協力を得て、滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコツチ」として開催。本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募集人数を縮小し、各回の申込みとするなどの対策を講じて実施し、オンライン配信によるサテライト会場での受講も可能とした。

主 催 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課・滋賀県立琵琶湖文化館
後 援 滋賀県文化財保護連盟・公益社団法人びわこビジターズビューロー・
公益財団法人滋賀県文化財保護協会

座学メイン会場 コラボしが21（大津市打出浜2-1）3階大会議室

第1回 5月27日(木)

「芦浦観音寺の王会図屏風について 令和2年度滋賀県新指定文化財紹介」

講師：古川史隆（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館） 参加者 90 人

第2回 6月17日(木)

「伝教大師最澄の生涯・思想と文化財」

講師：井上優（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館） 参加者 100 人

第3回 7月14日(水)

「滋賀県の仏教工芸 密教法具篇」

講師：田澤梓（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館） 参加者 80 人

第4回 8月26日(木)→新型コロナ感染拡大のため10月11日(月)に延期

「仏教美術にみる「死生観」」

講師：和澄浩介（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館） 参加者 100 人

第5回 9月16日(木)→新型コロナ感染拡大のため11月11日(木)に延期

「建造物のさまざまな屋根技法」

講師：菅原和之氏（滋賀県文化財保護課）

参加者 89 人

第6回 10月28日(木) 現地探訪

「渋沢栄一ゆかりの藤樹神社とその周辺」

講師：井上優（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館）

参加者 40 人

[合計 499 人]

サテライト会場		定員	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
彦根市	稲枝地区公民館	(15)	9人	10人	7人	中止	6人
近江八幡市	桐原コミュニティセンター	(30)	—	23人	—	—	—
	総合福祉センター	(30)	—	—	11人	中止	中止
草津市	常盤まちづくりセンター	(20)	11人	—	—	—	—
湖南市	共同福祉施設	(20)	—	—	7人	中止	2人
多賀町	多賀町立博物館	(20)	—	7人	7人	—	中止

[サテライト会場合計 100 人]

※第4回についてはサテライト会場での実施を一律中止としたため、急遽コラボしが 21 中会議室を手配し、申込者を受け入れた。

4. その他

(1) 広報活動

①ホームページの更新

- ・実施する事業や文化財に関する情報、休館中の活動内容等を紹介するホームページを随時更新した。
- ・他館において収蔵品を観覧することができるよう「収蔵品公開情報」の中で適宜情報提供を行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出を自粛せざるを得ない状況下で、自宅で気軽に楽しめる「文化館チャレンジ」のコーナーを充実させた。
- ・ホームページの更新にあわせて、屋外掲示板にて情報を発信した。

②報道機関への情報提供

報道関係機関等に対し、適宜資料提供を行った。

③研究紀要の発刊

学芸員の調査研究成果の発表および当該年度の活動実績報告（年報）として「研究紀要第 38 号」を発刊した。

(2) 寄託品所有者への対応

寄託品所有者に対して寄託更新等にかかる必要な手続きの補助を行った。

（３）各種問い合わせへの対応・保存支援

一般からの電話や来館等の問い合わせに対し、適切に対応した。

「県埋蔵文化財センター」

１．埋蔵文化財の遺物および資料の収蔵・保管

（１）出土遺物、資料の受け入れ

当協会が実施した整理調査で報告書が刊行された松原内湖遺跡などの出土遺物、図面資料、写真資料を受入、収納した。収納資料は土器 140 箱、石器 33 箱、木製品 20 箱、金属器 4 箱、瓦・土製品 1 箱、その他 1 箱の合計 199 箱である。図面資料はファイル 10 冊、写真資料はアルバム 15 冊である。

（２）資料の貸出等

①資料の貸出

博物館や資料館の展示等に資料の貸出を実施している。今年度は、19 件の貸出を実施した。

②資料調査の受入

出土資料活用の一環として、学術研究等の目的のための資料調査の申し出を受け入れている。今年度は 23 件の個人・団体を受け入れた。

③写真資料等の貸出および掲載許可等

書籍等への掲載のための写真・図面資料等の貸出や掲載許可等の業務を行っている。今年度は写真資料の貸出は 67 件（掲載・転載・撮影等を含む）であった。

（３）図書整理

①図書資料の受入

県外等から発掘調査報告書、年報、紀要、一般図書など 828 冊の寄贈を受けた。受け入れ図書は登録番号を添付し、書庫・第 3 収蔵庫に保存した。また、書名、発行所、登録番号等のデーターを入力し保存し、資料の検索や在庫の問い合わせに対応した。

②図書資料の閲覧

埋蔵文化財関係者や研究者、学生、一般にも書庫を開放し、図書資料の閲覧を行えるようにしている。今年度には 27 人の閲覧があった。

２．展示事業

（１）ロビー展示

1 階ロビーにおいて常設展示を行い、一般公開し、埋蔵文化財に対する知識の普及啓発に努めた。

ア．「平成の発掘成果から滋賀の歴史を垣間見る―古墳時代～室町時代―」

令和 3 年度上半期は令和 2 年度下半期から継続して「平成の発掘成果から滋賀の

歴史を垣間見る「古墳時代～室町時代」をテーマに出土遺物のほか写真パネル、文字パネル等を用いて紹介をした。

イ. 「ドングリからコメへ―淡海の弥生文化は水辺から始まった―」

滋賀県における弥生時代のはじまりについて出土遺物と写真パネル、文字パネル等を用いて紹介を行った。また、一般の方から展示の要望が多い相谷熊原遺跡や高島市上御殿遺跡の短剣鋳型を一定期間常設展示すると共に史跡紫香楽宮跡（内裏野地区）の遺物展示も行った。

（２）ＪＲ湖西線大津京駅構内での文化財関連展示

ＪＲ大津京駅構内の展示場で、埋蔵文化財保護の普及・啓発を目的とした展示を４回実施した。

①「湖西線各駅停車遺跡めぐり【マキノ駅】」

マキノ駅周辺の遺跡について高島市教育委員会の協力を得て、北牧野古墳群ほかの遺物とパネルを展示（４月～６月）。

②「湖西線各駅停車遺跡めぐり【永原駅】」

永原駅周辺の遺跡について葛籠尾崎湖底遺跡ほかの遺物とパネルを展示（６月～８月）。

③「大学生のとある投稿-高島市南畑古墳群を素材に-」

京都橘大学とのインターシップ事業の一環として高島市教育委員会の協力を得て高島市南畑古墳群についての展示を行った（８月～９月）。

④「湖西線各駅停車遺跡めぐり【近江塩津駅１】」

近江塩津駅周辺の遺跡について塩津港遺跡ほかの遺物とパネルを展示（９月～１月）。

⑤「湖西線各駅停車遺跡めぐり【近江塩津駅２】」

塩津港遺跡から出土した起請文木札や古代の神社跡について遺物やパネルを展示（１月～）。

３．普及啓発事業

（１）収蔵品を活用した普及・啓発事業

今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、文化ゾーンで行われる予定であった「みどりのつどいフェスティバル」等のイベントの中止や県内小・中学校等の学校教育の一環として実施される出前授業の大半が中止となった。

こうした中、近江国庁跡などの現地を案内するとともに、出土品を使った出前授業なども行った。また、「文化ゾーンフェスティバル」等のイベントで埋蔵文化財センターの一般公開など文化財の普及に努めた。

普及事業は学校関係として出前授業６校、その他、体験学習６回、イベント等２回を行った。普及事業の参加者総数は１,３３２人であった。

(2) ホームページの活用

埋蔵文化財センター開催の「ロビー展示」、「大津京駅構内展示」など行事を随時紹介し、広報に努めた。また、各種申請用紙を掲載し業務の省力化に努めた。

(3) 執筆・編集関係

①『埋もれた文化財の話 41』の編集

ロビー展示の解説をかねて「平成の発掘成果から滋賀の歴史を垣間見る一古墳～室町時代編一」をテーマに平成時代に行われた古墳時代から室町時代の発掘調査成果についてまとめ、執筆・編集した。

4. 施設の維持管理

(1) 庁舎維持管理委託業務

埋蔵文化財センターの施設の維持管理に関して、防災点検、水質点検、建物点検等 12 項目の定期点検業務を委託して実施した。その他、冷暖房熱源発生機配管修繕工事、非常用バッテリー交換工事、自動火災受信機等更新工事、屋外コンセント改修工事、洗出平板改修工事、館内 LED 照明器具取付工事、下水管つまり改修工事を実施した。

(2) 収蔵庫・収納品点検

埋蔵文化財センター以外に出土遺物を収蔵している 3 か所の収蔵庫を管理している。月に 1 回の点検を行い、資料の収蔵状況、収納遺物の確認、収蔵庫の外壁や屋根などの損傷、雨漏り、害虫、施錠などの状態を確認した。早崎収蔵庫・大石収蔵庫については、防犯カメラの設置を行った。

また、出土遺物に関しては、3 ケ所の収蔵庫以外、近江風土記の丘第 1 ～第 3 収蔵庫の月に 1 回の資料の収蔵状況、収納遺物の点検を行った。また、早崎収蔵庫と大石収蔵庫は 5 月と 10 月に敷地内の除草、6 月と 12 月に消防点検を行った。

5. 施設の利用

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行が収まらなかったが、入館者総数は 4,751 人と新型コロナウイルス感染症流行前と同じ程度まで回復した。

Ⅶ. 文化財保護資金貸付事業および文化財活用資金貸付事業

(1) 貸付審査会

第1回 令和3年7月15日(木)

第2回 令和4年1月24日(月)

(2) 文化財保護資金貸付事業実績

貸付先	市町名	貸付金額(円)	対象事業	文化財の名称
今井町内会 町代 尾林 裕之	日野町	2,500,000	日野曳山祭 今井町曳山 山倉修理事業	滋賀県無形民俗文化財日野 曳山祭 今井町曳山
所有者 中村 壽夫	長浜市	1,400,000	国指定文化財災害復旧事業 (中村家住宅)	重要文化財中村家住宅主屋
計		3,900,000		

(3) 文化財活用資金貸付事業実績

なし

(4) 総貸付件数(累計)

・文化財保護資金	令和4年3月末	360 件
・文化財活用資金	令和4年3月末	2 件

(5) 貸付残高

・文化財保護資金	令和4年3月末	34,450,000 円
・文化財活用資金	令和4年3月末	0 円